

# 地域おこし協力隊通信

## 第7回



今月のリポーター：  
森山健吾隊員

皆さんこんにちは!!  
7回目の協力隊通信担当の森山です。

さて今回は、協力隊の活動からはちょっと離れませんが、今年からお世話になっているスポーツ少年団(スポ少)の話になります。

現在、「潮来ソフトテニススポーツ少年団」でコーチとして活動しています。最初はごどもたちとどんな感じで接して良いのか戸惑っていましたが、今では気軽にこどもたちからも

話かけてくれるので嬉しい限りです。そんなスポ少での活動ももうすぐ1年が経つとしていきます。

経験者ではありませんが、指導の経験はないため、教えることの難しさを日々感じています。また、こどもたちに分かりやすく伝えるために、現役の頃よりソフトテニスについて勉強しているところです。こどもたちには、大会や試合で勝つことはもちろんですが、ソフトテニスが好きで気持ちいいと思っても忘れないでほしいと思います。その気持ちがこどもたちの成長を支えてくれると思っています。

実は、協力隊の活動に参加してもらったことでもあります。10月14日(月・祝)に開催された「ITA KOフェスタ」その中で担当した「こども店長野菜販売」では、店長として協力していただきました。コーチとしてだけでなく、協力隊としてもこどもたちと関わりを持てればと思います。

今後も協力隊の活動はもちろんです、それと並行してスポ少での活動も頑張っていきます!!

## まちづくり・潮来の自然と歴史を知る

# 潮来市の誇れる自然

## 水郷の魚たちーハクレン

第48回

霞ヶ浦で一番大きい魚は?よく聞かれるのですが、正確な記録が少なく答えに窮してしまつ質問です。すぐに思いつのが中国大陸原産のソウギョ、アオウオ、ハクレン、コクレン(この4種は中国では唐の時代から養殖され、豚などの家畜に対して四大家魚と呼ばれる)です。いずれも全長1mを超えます。当センターの学生が捕獲した最大サイズは写真のソウギョ122cmです。茨城県水産試験場のホームページには、コクレン133cmの画像も出ています。これらのうち、割と頻繁に見かけるのはハクレンです。夏場に弱った個体が湖岸近くによく漂着するからです。

ハクレンは体が側扁し、顔のやや下方に眼があり、うろこが細かく、体側が銀白色の魚です。日本では1940年代に利根川水系に導入されて定着し、現在、霞ヶ浦では生息量が多いです。成魚は梅雨時に利根川を遡上し、埼玉県と茨城県の県境付近に集まり、大雨のあとに産卵します。受精卵は流下しながら発生し数日でふ化しますが、ふ化する前に海に

流された卵は死んでしまつため、広大な下流域がある河川でしか繁殖できないといわれています。

ハクレンの餌は植物プランクトンです。アオコも食べるので、湖で巨大化した個体をたくさん漁獲すれば、水質浄化に役立つとも考えられています。この巨大魚が食材になれば良いのですが、夏場にアオコを摂餌する個体は身が臭くて、食用には不向きとのこと。ただし、冬になると臭みが減って美味しくなる、とくに腹身がうまい、と書いてある本もあります。まだ自身では試せずにいます。真冬のフナ「寒ブナ」は美味とされますから、寒ハクレンを試食してみようかと、恐る恐る思案しているところです。

茨城大学広域水圏環境科学

教育研究センター

加納光樹



北浦で採れたハクレン80cm



霞ヶ浦で採れたソウギョ 122cm